

香川生物 (KAGAWA SEIBUTSU), (10): 43-51, 1982

小豆島におけるモグラ属 (*Mogera*) 2種の採集について

楠橋 秀晃

香川郡直島町立直島小学校

Occurrence of Two Species in *Mogera* from the Is. of
Shōdo-shima, Kagawa Prefecture, Japan

Hideak KUSHIHASHI, *Naoshima Primary School, Naoshima, Kagawa District*

761-31, Japan

はじめに

岡田 (1955), 今泉 (1960; 1970), および阿部 (1964) によれば, 今まで小豆島にモグラ属 (*Mogera* sp.) が分布することは確認されていない。しかし, 小豆郡内海町に在住の瀬川浅男氏および水野靖憲氏が同町において1977年8月から1979年7月22日にかけて採集したモグラ属4頭の標本を, 筆者は当時内海町立内海中学校, 現綾歌郡国分寺町立国分寺中学校渡辺忠俊教諭より譲り受けた。また, 筆者自身も, 小豆島において, 1979年3月30日から1979年11月14日にかけて, 17頭のモグラ属の標本を採集した。これらのことにより, 小豆島にモグラ属が分布することが確認され, この種の同定を行ったので, その結果を報告する。

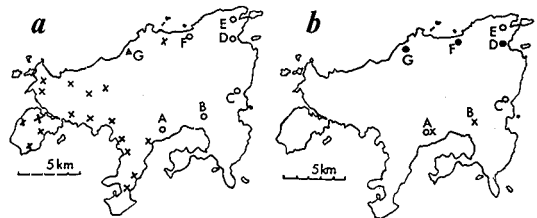
なお, 貴重な標本やデータを提供していただいた瀬川浅男氏・水野靖憲氏・渡辺忠俊教諭・高松市香西西田中末義氏・京都府立城南高等学校岩淵暁教諭, 聞き込み調査に応じて下さった香川県立小豆島高等学校片本毅教諭・郡土庄町立大部小学校中浦正晴教諭, 採集に同行していただいた岡山市立竜操中学校 (当時香川大学教育学部生物学教室学生) 青葉堅教諭・筆者の弟楠橋亮介氏に深く感謝する。また, 同定の労をとられた北大農学部阿部永助教授に深く感謝する。最後に, 本研究をまとめるにあたり, 終始御指導いただいた香川大学教育学部生物学教室金子之史助教授に心から御礼申し上げる。

採集・計測・および同定の方法

a) 採集期間・採集方法・および採集場所

筆者は, 1979年3月30日から1979年11月14日まで, 小豆島全域の平地にある耕地を対象にモグラ属の採集を行った (第1図)。採集方法は阿部 (1964) を参考に, 主に畑地・水田・牧草地のあぜでモグラの坑道をさがし, 市販の金属製のはさみ式のわなを設置した。採集地点は下記の通りである (第2図) 注-1

- A. 内海町西村: 安養寺境内, および周辺地域で, 周囲にはミカン畑が点在している。北向きの山の斜面に位置する。
- B. 内海町安田: 東西約900m, 南北約300mの農地で, 水田・畑・および牧草地として使われている。台風の被害のため, 場所によって1976年から1979年にかけて耕作を中止していたところもある。
- C. 内海町橋: 標高約60mで, 東向きの山の斜面に畑が点在する。台風災害の復旧作業中に土砂の中から発見されたモグラを瀬川浅男氏が採集した。



第1図 a モグラ属の採集地。

○ 採集地 △ 坑道を発見した地

× 坑道を発見できなかった地

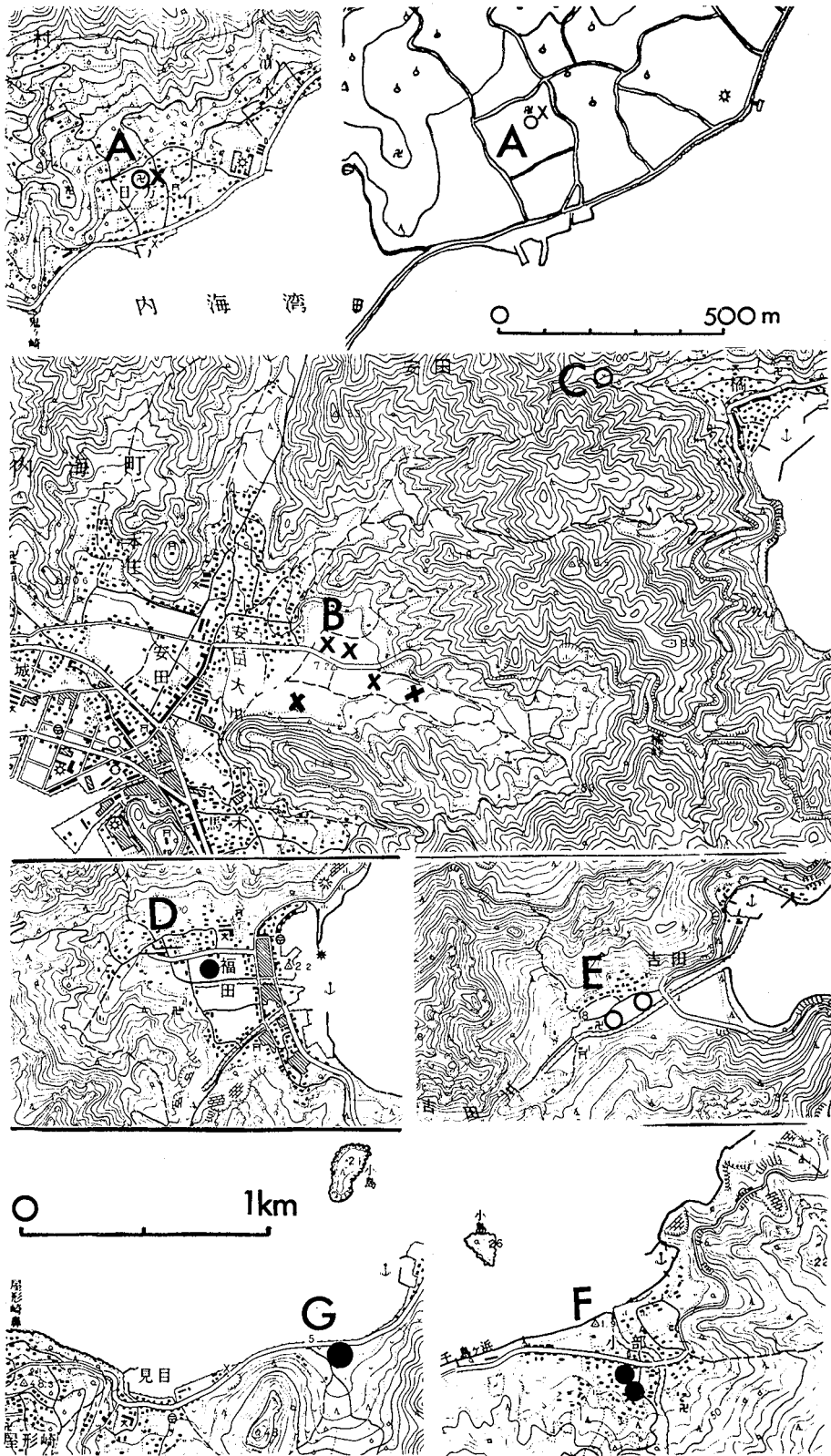
b 小豆島におけるモグラ属の分布

○ アズマモグラを採集した地

× コウベモグラを採集した地

● モグラの坑道を発見した地

a・bともに上が北を示す。



第2図 モグラ属の採集地

全て上が北を示す。特に記載のないものはGと同縮尺である。A～Gの地点名は本文中に記す。記号は第1図bとおなじである。

- D. 内海町福田：約50m四方の畑が点在する森庄川下流の土地である。モグラの坑道が発見された。
- E. 内海町吉田：東西約300m, 南北約80mの農地である。吉田川下流に位置し, 東側以外は山に囲まれている。
- F. 土庄町小部：約10aの水田と畑が点在する。モグラの坑道が発見された。
- G. 土庄町小海：空地から畑地へ通じる道沿いにモグラの坑道が発見された。

b) 年令査定・計測・およびスケッチの方法
年令査定はAbe(1967)により行った。これは, 歯の磨耗度を基準とするものである。今回は上顎臼歯のProtocone・Paracone・およびMetaconeの磨耗状態により3つの年令群に分けた。

Age-1: 満1才未満で, 磨耗はほとんどなく, Protocone・Paracone・Metaconeの先端はとがっている。

Age-2: 満1才以上, 満2才未満で, 磨耗が進み, Protoconeの先端は鋭いが, ParaconeおよびMetaconeは平坦になってきている。

Age-3: 満2才以上で, 臼歯はほとんど平坦である。

なお, 年令の更新は, 巣立ち後の個体の出てくる6月以後より行うこととした。

頭骨各部および外部形態の計測は, 阿部(1964)阿部ほか(1968), Abe(1967)・および今泉(1970)により行った。

頭骨各部の寸法は, 主に最小目盛1/100mmのノギスを用いて1/10mmまで計測し, ノギスが使えない部位は, デバイダーで寸法をとり, それを最小目盛1mmの全長30cmのものさしを用いて1/10mmまで計測した。外部形態は最小目盛1mmの全長30cmのものさしを用いて1/10mmまで計測した。また, 重量は, 上皿直視天秤で1/10gまで計測した。計測した頭骨および外部形態の部位は下記の通りである。

- ① 頭骨全長(G. L. S): 前顎骨の前縁から上後頭骨の後縁までの距離。
- ② 吻幅(Rostr al Breadth): 左右の犬歯の

最外部間の距離。

- ③ 眼窩中隔幅(Interorbital Breadth): 眼窩の張り出しの最大幅。
- ④ 上歯列長(Length of Upper Tooth Row): 上顎最前位の門歯歯槽前縁から最後位臼歯の歯槽後縁までの距離。
- ⑤ 上顎骨歯列長(Length of Maxillary Tooth Row): 上顎犬歯歯槽前縁から最後位臼歯の歯槽後縁までの距離。C⁻¹~M⁻³。
- ⑥ 脳函後部長(Length of Posterior Half Braincase): 乳様突起の端を結んだ線と上後頭骨の後縁までの距離。
- ⑦ 脳函後部幅(Breadth of Posterior Half Braincase): 脳函の最大幅。
- ⑧ 臼歯間幅(Breadth across Molars): 左右の臼歯の外側の最大幅。
- ⑨ 口蓋長(Palatal Length): 骨口蓋後縁部中央の凹みの最前端と中央門歯歯槽の後縁間の最短距離。
- ⑩ 吻幅/眼窩中隔幅: ②÷③×100(%)。計算により求める。
- ⑪ 上顎門歯列の突出度: (④-⑤)÷②×100(%)。計算により求める。
- ⑫ 脳函後部の縦横比: ⑥÷⑦×100(%)。計算により求める。
- ⑬ 臼歯間幅/口蓋長: ⑧÷⑨×100(%)。計算により求める。
- ⑭ 体重(Body Weight)
- ⑮ 頭胴長(Head & Body Length): 吻の先端から尾のつけ根までの距離。
- ⑯ 掌長(Fore Foot Length): 掌の後端から第3指の先端までの距離。ただし爪は除く。左右の平均値を求めた。
- ⑰ 掌幅(Fore Foot Width): 掌のひらの最大幅。ただし毛は除く。左右の平均値を求めた。
- ⑱ 後足長(Hind Foot Length): かかとの後端から第3指の先端までの距離。ただし爪は除く。左右の平均値を求めた。
- ⑲ 尾長(Tail Length): 背面の尾のつけ根から尾の先端までの距離。ただし毛は除く。
- ⑳ 尾率(T. %): ⑲÷⑮×100(%)。計算に

より求める。

スケッチは万能投影機を用いて頭骨標本を約10倍に拡大し、トレーシングペーパーにトレースするという方法をとった。スケッチをしたのは、上顎門歯列の形状および下眼窩孔の後下角の形状である。

c) 同定の方法

モグラ属の同定は、阿部(1964), Abe(1967); および今泉(1960; 1970)によった。

阿部(1964), および Abe(1967)によれば、日本産モグラ属は、アズマモグラ(*Mogera wogura*), コウベモグラ(*M. kobeae*), およびサドモグラ(*M. tokudae*)の3種である。主な区別点は、下記の通りである: ①頭骨全長: 計測値を示すと、アズマモグラは31.5mm~38.5mm, コウベモグラは33.0mm~42.1mm, サドモグラは38.0mm~43.3mmである。②上顎門歯列の形状では、アズマモグラはV字形, コウベモグラはU字形, サドモグラはV字形である。③下眼窩孔の後下角の形状では、アズマモグラはくさび形, コウベモグラは円形, サドモグラは円形である。

また、Abe(1967)は、頭骨全長と頭骨各部の比との関係より考えられる年令的形態分化の系列を日本産モグラ属を3種に分ける根拠とし、下記の4点をあげている: ①吻幅/眼窩中隔幅: 数値が大きいほど吻は太めでがっしりしてくる。アズマモグラは49.7%~67.6%, コウベモグラは56.1%~72.9%, サドモグラは57.5%~67.4%である。②上顎門歯の突出度: 数値が大きいほど上顎門歯は突出している。アズマモグラは20.4%~42.5%, コウベモグラは14.1%~29.2%, サドモグラは21.8~35.8%である。③脳函後部従横比: 数値が大きいほど脳函後部は細長い。アズマモグラは54.3%~64.8%, コウベモグラは50.5%~62.7%, サドモグラは51.3%~57.0%である。④臼歯間幅/口蓋長: 数値が大きいほど口蓋は太くなる。Abe(1967)ではグラフでの記載のみである。アズマモグラはG. L. S. が大きくなると数値が大きくなり、コウベモグラはG. L. S. が大きくなると数値が小さくなり、サドモグラはG. L. S. の大きさに

はあまり関係がない。アズマモグラやコウベモグラの数値よりやや小さい数値である。

今泉(1960, 1970)によれば日本産モグラ属はアズマモグラ, コウベモグラの2種である。主な区別点は以下の通りである: ①頭骨全長ではアズマモグラは普通37mm以下, コウベモグラは普通36mm以上である。②上顎門歯列の形状では、アズマモグラはV字形, コウベモグラはU字形である。③下眼窩孔の後下角の形状では、アズマモグラはV字形, コウベモグラはU字形である。④下眼窩孔の後下角の形状ではアズマモグラはくさび形, コウベモグラは円形である。

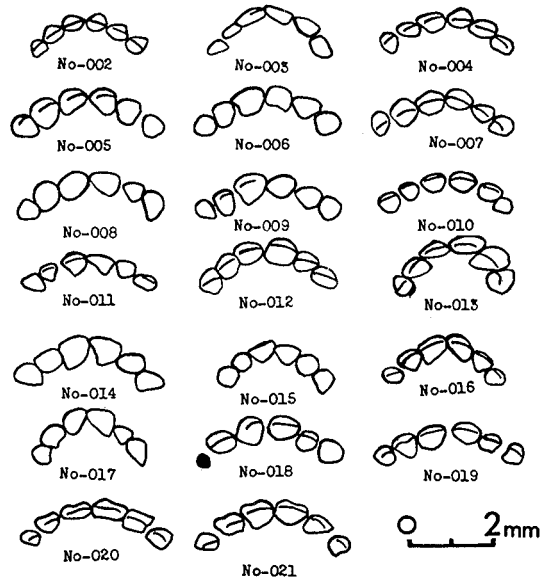
結 果

a) 採集の結果

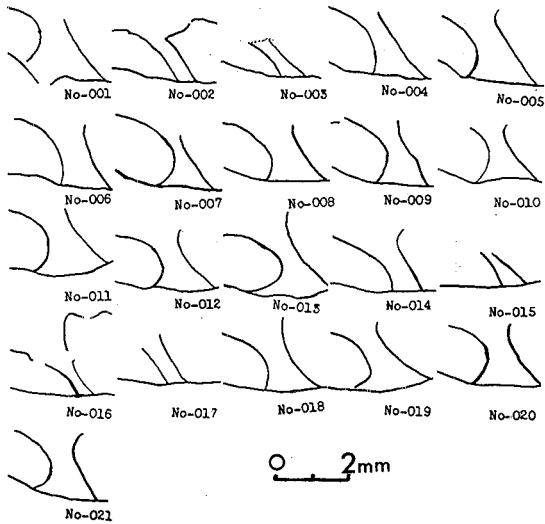
今回採集した標本は21頭で、うち17頭は筆者が採集し、残りは他の人が採集したものである(第2図; 第1表)。

b) 計測・スケッチの結果

採集した標本の計測値は、頭骨全長の大きい順に並べて第2~4表に示した。ただし頭骨全長が計測できなかったものや、頭骨全長が同じ値であったものは口蓋長の大きな順に並べている。上顎門歯列の形状および下眼窩孔の後下角



第3図 採集したモグラ属の上顎門歯列の形状。No-018の黒い部分は歯根の跡を示す。



第4図 採集したモグラ属の下眼窩孔の後下角の形状。図中左側が前方を示す。

の形状は第3図および第4図に示した。

c) 同定の結果

阿部(1964), およびAbe(1967)による同定の方法にしたがうと、今回採集した標本は(第2表および第3表), 頭骨全長によって2つの群に分けられる。1つは頭骨全長31.2mm~32.4mmの群で、前記のアズマモグラの計測値とほぼ一致するもので、Na 002, 003, 015, 016, 017で構成されている。もう一つは頭骨全長37.6mm~39.9mmの群で、前記のコウベモグラおよびサドモグラの計測値とほぼ一致するもので、Na 001, 004, 005, 006, 007, 008, 009, 010, 011, 012, 013, 014, 018, 019, 020, 021で構成される。

前顎門歯列の形状はNa 003, 015, 016, 017はV字形で、Na 002, 004, 005, 006, 007, 008, 009, 010, 011, 012, 013, 014, 018, 019, 020, 021はU字形であった。Na-001の頭骨標本の門歯は抜けてしまったが、歯根の入っていた穴の並び方はU字形であった。

下眼窩孔の後下角の形状がくさび形であったのはNa 002, 003, 015, 016, 017で、円形であったのはNa 001, 004, 005, 006, 007, 008, 009, 010, 011, 012, 013, 018, 019, 020, 021であった。また、Na 014ではくさび形と円形の中間的な形状であった。

頭骨各部の比を頭骨全長31.2mm~32.4mmの群と頭骨全長37.6mmの群とで比較すると、前者の群は吻幅/眼窩中隔幅比は54.8~55.6%, 上顎門歯の突出度は32.5~34.1%, 脳函後部縦横比は57.6~60.4%, 臼歯間幅/口蓋長比は61.8~64.4%で、後者の群は吻幅/眼窩中隔幅比は62.7~73.8%, 上顎門歯の突出度は15.5~28.6%, 脳函後部縦横比は52.7~60.4%, 臼歯間幅/口蓋長比は62.7~68.4%であった。このことから両群の数値の間にギャップが存在することがわかる。又、前者の数値はアズマモグラの値に、後者の値はコウベモグラの値にそれぞれよく一致する。これらのことからNa 002, 003, 015, 016, 017はアズマモグラと同定され、Na 001, 004, 005, 006, 007, 008, 009, 010, 011, 012, 013, 014, 018, 019, 020, 021はコウベモグラと同定される。

つぎに今泉(1960;1970)による同定の方法の結果にしたがうと頭骨各部の形状についてはAbe(1967)と同一の見解であるので省略する。また、頭骨全長37mm以下のものはNa 002, 003, 015, 016, 017で、頭骨全長36mm以上のものはNa 001, 004, 005, 006, 007, 008, 009, 010, 011, 012, 013, 014, 018, 019, 020, 021であった。これらのことからNa 002, 003, 015, 016, 017はモグラ(*M. wogura*)と同定され、Na 001, 004, 005, 006, 007, 008, 009, 010, 011, 012, 013, 014, 018, 019, 020, 021はコウベモグラと同定される。これは阿部(1964), およびAbe(1967)による同定の結果と種の段階では同じ結果となった。

小豆島におけるモグラ属の分布と地理的変異

今回の採集結果と同定の結果から小豆島にはアズマモグラとコウベモグラが分布することが確認された。アズマモグラが分布するのは内海町西村・橋・吉田で、コウベモグラが分布するのは内海町西村・安田であった。また、坑道が発見された内海町福田・土庄町小部・小海には上記の小豆島におけるアズマモグラとコウベモグラの分布の傾向から、アズマモグラが分布している可能性があると思われる(第1図)。

今回採集したアズマモグラとコウベモグラの計測値の平均値を第5表と第6表に示した。この計測値を今泉(1970)による他の地域の同種の個体群の計測値を較べてみると次のようなことが言える。

第1には小豆島産のアズマモグラの個体群は、アズマモグラの中では小形の個体群で、広島県比和町産の個体群と計測値が似ている。第2に小豆島産のコウベモグラの個体群はコウベモグラの中では中形の個体群で、広島県比和町産の個体群と計測値が似ている。また、四国本島産の個体群(N=4)に較べてやや大形であるが、岩淵(未発表)による1977年から1978年にかけて香川県高松市内で採集された標本の頭骨全長の値(N=96), 37.3~40.7 mm, M±S. D. 39.4±0.8 mmに較べるとやや小形である。

したがって小豆島産のモグラ属は2種とも広島県比和町産の個体群と体の大きさがよく似ていることがわかる。この問題の生物地理学的な意味については今後の検討課題としたい。

要 約

- 1) 筆者等は、1977年8月から1979年11月14日にかけて小豆島全域の平地にある耕地においてモグラ属を採集し、21頭の標本を得た。
- 2) 採集した標本は計測およびスケッチを行い、その結果をもとに同定を行った。
- 3) 採集結果と同定の結果より、小豆島ではアズマモグラは、内海町西村・橘・および吉田に分布し、コウベモグラは、内海町西村・お

よび安田に分布することが確認された。

- 4) 計測結果により、小豆島産モグラ属は、2種とも広島県比和町産の個体群と計測値が似ていることがわかった。

引 用 文 献

- 阿部永・1964. 日本の哺乳類 1 食虫目(モグラ属)アズマモグラ. 哺乳類科学 (7):1-10
- Abe, H. 1967. Classification and biology of Japanese insectivora (Mammalia) 1. Studies on variation and classification. *J. Facul. Agr. Hokkaido Univ., Sapporo* 55:192-269.
- 阿部永・朝田稔・東滋・川村俊蔵・小林恒明・折原美代治・太田嘉四夫・吉場健二. 1968. 哺乳動物調査法 文部省科学研究費特定研究「生物圏の動態」各種陸上生態系における二次生産構造の比較研究 JIBP/CT-S セクションにおける陸上動物相調査法: 1-49.
- 今泉吉典. 1960. 原色哺乳類図鑑. 保育社, 大阪.
- 今泉吉典. 1970. 日本哺乳類図説, 上巻. 新思潮社, 東京.
- 岡田康稔. 1955. 小豆島の哺乳類. 小豆島の自然: 14-15.
- 注-1) この他に土庄町琴塚・尾形崎・および目島でモグラの坑道らしきものを発見した。また、「土庄町大部ではネコがモグラを獲っている。」という話を大部小学校中浦正晴教諭より聞いた。

第1表 標本の採集結果

標本番号	採集地点*	採集年月日	採集者**	採集場所の状況
001	A	'77年 8月	水野靖憲	安養寺東側の路上で死体を採集した。
002	A	'77年 10月	水野靖憲	安養寺境内で死体を採集した。
003	C	'78年 10月	瀬川浅男	採集地の標高約60m, 災害復旧作業中発見。
004	B	'79年 3月 30日		畑のあぜ
005	B	'79年 3月 30日		畑のあぜ
006	B	'79年 4月 20日		畑のあぜ
007	B	'79年 4月 29日		畑のあぜ
008	B	'79年 5月 1日		畑 砂土
009	B	'79年 5月 11日		水田 エンドウマメの根本
010	B	'79年 5月 11日		砂土
011	B	'79年 5月 29日		溝のわき
012	B	'79年 6月 24日		休耕田 砂土
013	B	'79年 7月 8日		畑
014	B	'79年 7月 22日	瀬川浅男	農道上にて発見。
015	E	'79年 10月 26日		畑のあぜ
016	E	'79年 10月 27日		畑のあぜ 砂土
017	E	'79年 10月 27日		畑のあぜ 砂土
018	B	'79年 11月 9日		畑のあぜ 粘土
019	B	'79年 11月 10日		畑のあぜ 粘土 坑道に足跡あり。
020	B	'79年 11月 14日		畑のあぜ 赤土 坑道に足跡あり。
021	B	'79年 11月 14日		畑のあぜ 坑道に足跡あり。

* 採集地点の記号については本文中に記した。

** 記載のないものは全て榑橋秀晃である。

第2表 採集されたモグラ属の頭骨計測値 (mm)

標本番号	年令群	性別	頭骨全長	吻幅	眼窩中隔幅	上歯列長	上骨齒列長	顎後部長	脳函後部長	脳函後部幅	白間幅	齒幅	口蓋長
009	2	♂	39.9	5.9	8.0	16.3	15.3	10.2	19.3	10.5	15.7		
012	2	♂	39.4	5.8	8.0	16.1	15.2	10.2	18.5	9.9	15.6		
007	3	♂	39.0	5.5	8.0	15.8	14.6	10.5	18.9	9.8	15.6		
021	1	♂	39.0	5.6	8.0	16.2	15.0	10.5	18.9	10.0	15.6		
018	3	♀	38.9	5.9	8.4	16.1	14.8	10.5	19.0	10.4	15.2		
013	1	♂	38.9	4.7	7.5	15.4	14.1	—	—	9.4	15.0		
001	1	♂	38.7	5.5	8.1	—	—	10.3	18.0	—	15.6		
006	3	♂	38.7	5.8	8.0	15.9	14.8	10.3	18.4	9.8	15.3		
019	3	♀	38.7	5.3	7.7	15.7	14.6	10.2	18.8	10.1	15.1		
014	1	♂	38.5	5.4	8.0	16.1	14.7	10.5	18.6	9.8	15.2		
005	1	♀	38.5	5.6	8.1	16.0	14.7	10.4	18.1	10.1	15.0		
020	2	♂	38.4	5.7	8.1	16.0	14.6	10.7	18.8	10.0	15.0		
004	2	♂	38.2	5.5	7.8	15.5	14.4	10.4	18.4	9.9	15.7		
008	2	♂	38.0	5.4	8.0	15.4	14.2	9.7	18.4	—	14.9		
010	2	♂	37.8	5.4	7.8	15.4	14.2	10.0	18.0	9.7	15.0		
011	2	♀	37.6	4.9	7.7	15.4	14.0	10.3	18.1	9.7	14.8		
016	1	♂	32.4	4.0	7.2	13.2	11.9	9.3	15.4	8.1	12.9		
017	1	♂	32.4	4.1	7.4	13.6	12.2	8.7	15.1	7.9	12.4		
015	2	♀	31.9	4.0	7.3	12.8	11.5	8.9	15.3	8.0	12.5		
003	1	♀	—	4.0	—	13.1	11.8	—	—	7.6	12.3		
002	2	♂	31.2	4.0	7.3	12.7	11.4	8.5	14.6	7.6	11.8		

第3表 採集されたモグラ属の頭骨各部の比

標本番号	年齢群	性別	頭骨全長 (mm)	吻幅 眼窩中隔幅 (%)	上顎門歯列の 突出度 (%)	脳後部の 縦横比 (%)	臼歯間幅 口蓋長 (%)
009	2	♂	39.9	73.8	16.9	52.8	66.9
012	2	♂	39.4	72.5	15.5	55.1	63.5
007	3	♂	39.0	68.8	21.8	55.6	62.8
021	1	♂	39.0	70.0	21.4	55.6	64.1
018	3	♀	38.9	70.2	22.0	55.3	68.4
013	1	♂	38.9	62.7	27.7	—	62.7
001	1	♂	38.7	67.9	—	57.2	—
006	3	♂	38.7	72.5	19.0	56.0	64.1
019	3	♀	38.7	68.8	20.8	54.3	66.9
014	1	♂	38.5	67.5	25.9	56.5	64.5
005	1	♀	38.5	69.1	23.2	57.5	67.3
020	2	♂	38.4	70.4	24.6	56.9	66.7
004	2	♂	38.2	70.5	20.0	56.5	63.1
008	2	♂	38.0	67.5	22.2	52.7	—
010	2	♂	37.8	69.2	22.2	55.6	64.7
011	2	♀	37.6	63.6	28.6	56.9	65.5
016	1	♂	32.4	55.6	32.5	60.4	62.8
017	1	♂	32.4	55.4	34.1	57.6	63.7
015	2	♀	31.9	54.8	32.5	58.2	64.0
003	1	♀	—	—	32.5	—	61.8
002	2	♂	31.2	54.8	32.5	58.2	64.4

第4表 採集されたモグラ属の外部計測値

標本番号	年齢群	性別	頭骨全長 (mm)	体重 (g)	頭胴長 (mm)	掌長 (mm)	掌幅 (mm)	後足長 (mm)	尾長 (mm)	尾率 (%)
009	2	♂	39.9	—	—	—	—	—	—	—
012	2	♂	39.4	—	—	—	—	20.7	25.1	—
007	3	♂	39.0	—	—	—	—	20.6	14.6	—
021	1	♂	39.0	123.0	147.5	19.6	20.5	21.3	22.5	15.3
018	3	♀	38.9	128.1	153.6	20.5	22.1	19.0	22.4	14.6
013	1	♂	38.9	—	—	—	—	—	—	—
001	1	♂	38.7	—	146.9	19.5	19.6	19.6	25.7	17.5
006	3	♂	38.7	—	—	—	—	—	—	—
019	3	♀	38.7	129.5	153.1	22.3	21.4	20.9	17.6	11.5
014	1	♂	38.5	86.4	133.7	21.8	21.2	20.5	23.2	17.4
005	1	♀	38.5	—	—	—	—	—	—	—
020	2	♂	38.4	133.2	159.8	22.8	23.9	21.6	20.8	13.0
004	2	♂	38.2	—	—	—	—	—	—	—
008	2	♂	38.0	—	—	—	—	—	—	—
010	2	♂	37.8	—	—	—	—	—	—	—
011	2	♀	37.6	—	—	—	—	—	—	—
016	1	♂	32.4	60.9	121.1	18.5	19.6	17.3	20.4	16.8
017	1	♂	32.4	56.4	112.6	16.9	17.3	17.3	21.1	18.7
015	2	♀	31.9	54.0	110.1	16.4	15.3	16.7	18.9	17.2
003	1	♀	—	—	112.2	15.2	14.7	14.8	18.6	16.6
002	2	♂	31.2	—	110.1	15.0	14.8	16.4	18.3	16.6

第5表 小豆島産アズマモグラの計測値

項	目	N	最小値～最大値	M ± S. D.
頭骨全長	(mm)	4	31.2 ~ 32.4	32.0 ± 0.6
吻幅	(mm)	5	4.0 ~ 4.1	4.0 ± 0
眼窩中隔幅	(mm)	4	7.2 ~ 7.4	7.3 ± 0.1
上歯列長	(mm)	5	12.7 ~ 13.6	13.1 ± 0.4
上顎骨歯列長	(mm)	5	11.4 ~ 12.2	11.8 ± 0.3
脳函後部長	(mm)	4	8.5 ~ 9.3	8.9 ± 0.3
脳函後部幅	(mm)	4	14.6 ~ 15.4	15.1 ± 0.4
臼歯間幅	(mm)	5	7.6 ~ 8.1	7.8 ± 0.2
口蓋長	(mm)	5	11.8 ~ 12.9	12.4 ± 0.4
吻幅 / 眼窩中隔幅	(%)	4	54.8 ~ 55.6	55.2 ± 0.4
上顎門歯列の突出度	(%)	5	32.5 ~ 34.1	32.8 ± 0.7
脳函後部の縦横比	(%)	4	57.6 ~ 60.4	58.6 ± 1.2
臼歯間幅 / 口蓋長	(%)	5	61.8 ~ 64.4	63.3 ± 1.0
体重	(g)	3	54.0 ~ 60.9	57.1 ± 3.5
頭胴長	(mm)	5	110.1 ~ 121.1	113.2 ± 4.6
掌長	(mm)	5	15.0 ~ 18.5	16.4 ± 1.4
掌幅	(mm)	5	14.7 ~ 19.6	16.3 ± 2.1
後足長	(mm)	5	14.8 ~ 17.3	16.5 ± 1.0
尾長	(mm)	5	18.3 ~ 21.1	19.5 ± 1.2
尾率	(%)	5	16.6 ~ 18.7	17.2 ± 0.9

第6表 小豆島産コウベモグラの計測値

項	目	N	最小値～最大値	M ± S. D.
頭骨全長	(mm)	16	37.6 ~ 39.9	38.6 ± 0.6
吻幅	(mm)	16	4.7 ~ 5.9	5.5 ± 0.3
眼窩中隔幅	(mm)	16	7.5 ~ 8.4	8.0 ± 0.2
上歯列長	(mm)	15	15.4 ~ 16.3	15.8 ± 0.3
上顎骨歯列長	(mm)	15	14.0 ~ 15.3	14.6 ± 0.4
脳函後部長	(mm)	15	9.7 ~ 10.7	10.3 ± 0.2
脳函後部幅	(mm)	15	18.0 ~ 19.3	18.5 ± 0.4
臼歯間幅	(mm)	14	9.4 ~ 10.5	9.9 ± 0.3
口蓋長	(mm)	16	14.8 ~ 15.7	15.3 ± 0.3
吻幅 / 眼窩中隔幅	(%)	16	62.7 ~ 73.8	69.1 ± 2.9
上顎門歯列の突出度	(%)	15	15.5 ~ 28.6	22.1 ± 3.6
脳函後部の縦横比	(%)	15	52.7 ~ 57.5	55.6 ± 1.5
臼歯間幅 / 口蓋長	(%)	14	62.7 ~ 68.4	65.1 ± 1.9
体重	(g)	5	86.4 ~ 133.2	120.0 ± 19.2
頭胴長	(mm)	6	133.7 ~ 159.8	149.1 ± 8.9
掌長	(mm)	6	19.5 ~ 22.8	21.1 ± 1.4
掌幅	(mm)	6	19.6 ~ 23.9	21.5 ± 1.5
後足長	(mm)	8	19.0 ~ 21.6	20.5 ± 0.9
尾長	(mm)	8	14.6 ~ 25.7	21.5 ± 3.8
尾率	(%)	6	11.5 ~ 17.5	14.9 ± 2.4